

黒羽山 大雄寺 雄禅会かわら版

冬号



冬の朝、（寒くてふとんから出たくない。毎日、疲れているので今日くらいいいや。昨日、遅くまで起きていたので、めんどくさいなあ。）様々な理由付けで、坐禅会に行かないことを正当化しようという誘惑にかられます。でも「行かなくちや。」と、一念発起。お寺に向かいます。

木版の合図で、入堂、坐禅、そして放禅。やはり来てよかつたと思える瞬間です。出来ない理由を見つけるよりも考えずに坐ってみる。そして、続けること。裸足が寒さで凍えても、坐らない誘惑を乗り越えられた達成感があります。ここで坐ってみませんか。

雄禅会会長 目面 靖浩

お寺いらむ

今回の”お



寺こらむ”は、十月の研修旅行の感想として参加者の高木亮さんをお願いします。



達磨寺ご住職とともに。

☆十月二十日（日）今年の研修旅行は、大雄寺の山門や禅堂の扁額の作者である東臯心越禅師を開山と仰ぎ、群馬県の古刹少林山達磨寺。達磨寺は現在黄檗宗の寺で以前より心越禅師つながりで大雄寺とお付き合

いがあるとのこと。山門はまるで中国、いかにも黄檗宗の寺。住職に迎えられる瑞雲郭にて東臯禅師の書を拝見する。水戸光圀に鉄砲で脅かされたのを一喝して「喝」は禅家の常と平然としていたという逸話のある禅師の風格のある

書に感動しました。その後、黄檗宗の禅についてご住職から講話をいただき、坐禅体験をさせていただきました。

本堂では、ご祈禱に参加させていただきました。中国の音で行うご祈禱やお経は、まったく聞き取れず、不思議な感じがしました。また、本堂のご本尊は北辰鎮宅霊符尊という事で道教の強い影響を受けていることがわかりました。まさに百聞は一見に如かず、行ってみて聞いてみなければわからないことばかりでした。

ご住職から伺った話には、「般若心経は日本だけ2字多い」こと、「ご祈禱は私がするから本人は呼吸を正していて願いごとをしないように」など、初めて聞くようなお話が多く、パンプレットには「羅喉羅尊者が胸を開くとそこには阿弥陀佛が。」という仏像が載っていて、“お互いを拝むことはその人の中にある仏を拝むことになるのだ”という事が自分なりに理解

できたような気がしました。

今回の研修旅行は、高崎の現地に各自集合という事で行われたにも関わらず、倉澤住職はじめ県内各所、茨城の会員まで総勢10名で和気藹々と研修ができたことに充実感を感じました。また、一口に仏教といってもいろいろな教え、考えがあることもよくわかり、今後一層研鑽を積んでいく必要も感じられ、充実した良い一日を送ることができました。雨の一日、爽やかな気持ちで帰路につきました。

高木 亮

★この方インタビュー★

今回は、村岡さんからのご指名によりいつも作務衣がお似合いの佐藤さんです。よろしくお願いします。



佐藤さん

Q1；坐禅会に参加のきっかけはなんでしたか？
A1；ほのぼの顔の観音

様、お寺の佇まい、坐禅堂の空間の良さに感動したことがきっかけです。

Q2；お住まいは、どちらですか？参加されて何年ですか？

A2；茨城県桜川市、在住です。参加して6年になります。

Q3；坐禅をしていかがですか？

A3；他愛のないことに感謝。坐禅を通し、大切な時を刻むという事を覚えさせられます。

Q4；参加されているの感想は、いかがですか？

A4；心温まるひと時が過ぎます。ご住職や雄禅会の皆様のお陰と感謝しています。

合掌

☆雄禅会・今後の活動☆

☆十二月二十一日〜二十二日。宿泊修行の一夜と親睦忘年会を開催。

☆31日大晦日は、除夜の鐘の音の中、夜坐をします。新年を静かな心で迎える事が出来ます。お時間のある方は、どなたでもどうぞ。よいお年をお迎えください。